令和４年度

ジェンダー平等社会に関する

アンケート調査報告書

令和５年（２０２３年）４月

茅ヶ崎市

目次

第１章　調査の概要 ･･ 1
１　調査の目的 ･･ 1
２　調査の方法 ･･ 1
３　回収結果 ･･ 1
４　調査結果の見方 ･･ 1

第２章　調査結果の詳細 ･･ 2
１　回答者の属性 ･･ 2
２　各設問の調査結果 ･･ 4
（１）ジェンダー平等に関する用語の認知度･･････････････････････････ 4
①男女共同参画社会基本法 ････････････････････････････････････ 4
②女性活躍推進法 ･･ 5
③ちがさき男女共同参画推進プラン ････････････････････････････ 6
④茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした男女共同参画社会
の形成に向けた取組 ･･･ 7
⑤暴力を受けたときに相談できる窓口（女性のための相談室） ･････････ 8
⑥メディア・リテラシー ･･････････････････････････････････････ 9
⑦ジェンダー平等 ･･ 10
⑧多様性社会 ･･ 11
（２）男女の地位の平等の考え方について･････････････････････････････ 12
（３）「男は仕事、女は家庭」という考え方について･･････････････････ 15
（４）一般的に女性が職業を持つことについて････････････････････････ 16
（５）配偶者・パートナー間における暴力行為の考え方について･･････････ 17
（６）女性が妊娠・出産等について自ら決定することについて････････････ 18

第３章　調査結果のまとめ･･････････････････････････････････････ 19

資料編 ･･ 20

第１章　調査の概要

第１章　調査の概要

１ 調査の目的

この調査は、ジェンダー平等社会に関する市民の意識を把握し、今後の茅ヶ崎市のジェンダー平等の施策に反映させるための基礎資料とすることを目的として実施しました。

２ 調査の方法

（１）調査地域：茅ヶ崎市全域

（２）調査対象：市内在住の１８歳以上の男女１，３００人

（３）抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出

（４）調査方法：郵送配布・郵送回収（封書）またはインターネット回答

（５）調査期間：令和５年１月４日（水）から１月３１日（火）まで（当日消印有効）

３ 回収結果

（１）配　布　数：1,３００

（２）有効回収数：５７６（封書：４３０・インターネット：１４６）

（３）有効回収率：４４．３％

４ 調査結果の見方

（１）図表中のＮは、回答者数のことです。

（２）回答は全てＮを基数とした百分率で表し、小数点第二位を四捨五入しました。このため、百分率の合計が１００%にならない場合があります。

（３）集計の結果の表やグラフでは、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合があります。

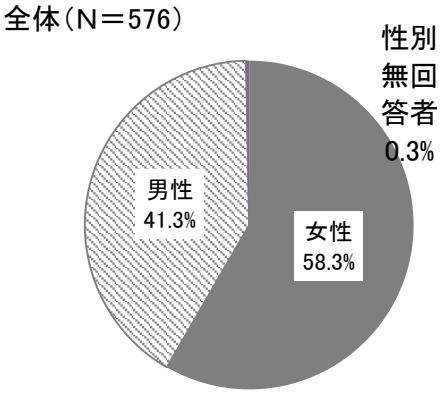
第２章　調査結果の詳細

第２章　調査結果の詳細

１　回答者の属性

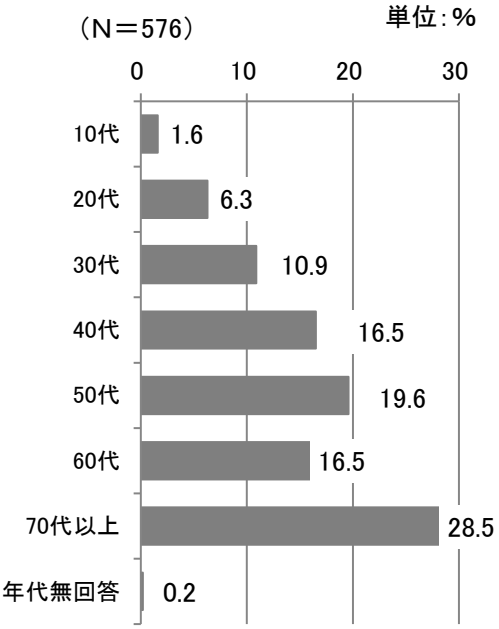
（１）性別

性別	件数	%
女性	336	58.3
男性	238	41.3
その他	0	0
性別無回答者	2	0.3
合計（回答者数Ｎ）	576	100.0



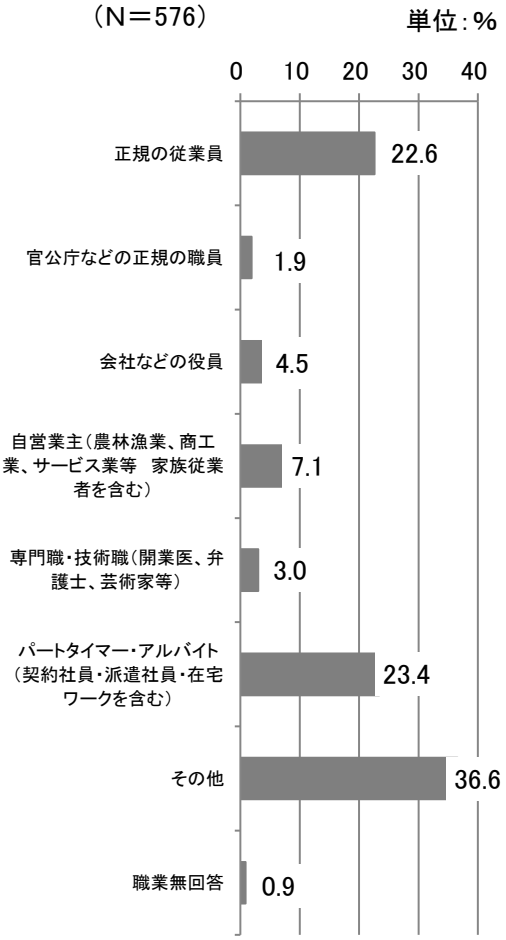
（２）年代

年代	件数	%
10代	9	1.6
20代	36	6.3
30代	63	10.9
40代	95	16.5
50代	113	19.6
60代	95	16.5
70代以上	164	28.5
年代無回答	1	0.2
合計（回答者数Ｎ）	576	100.0



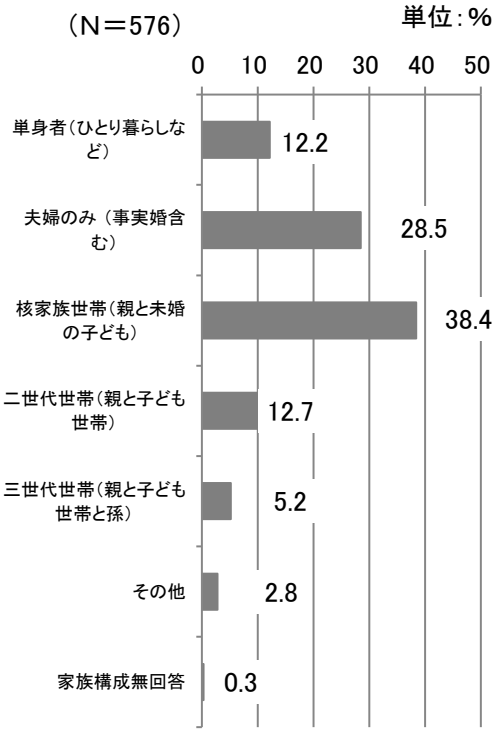
（３）職業

職業	件数	%
正規の従業員	130	22.6
官公庁などの正規の職員	11	1.9
会社などの役員	26	4.5
自営業主（農林漁業、商工業、サービス業等　家族従業者を含む）	41	7.1
専門職・技術職（開業医、弁護士、芸術家等）	17	3.0
パートタイマー・アルバイト（契約社員・派遣社員・在宅ワークを含む）	135	23.4
その他	211	36.6
職業無回答	5	0.9
合計（回答者数Ｎ）	576	100.0



（４）家族構成

家族構成	件数	%
単身者（ひとり暮らしなど）	70	12.2
夫婦のみ　（事実婚含む）	164	28.5
核家族世帯（親と未婚の子ども）	221	38.4
二世代世帯（親と子ども世帯）	73	12.7
三世代世帯（親と子ども世帯と孫）	30	5.2
その他	16	2.8
家族構成無回答	2	0.3
合計（回答者数Ｎ）	576	100.0



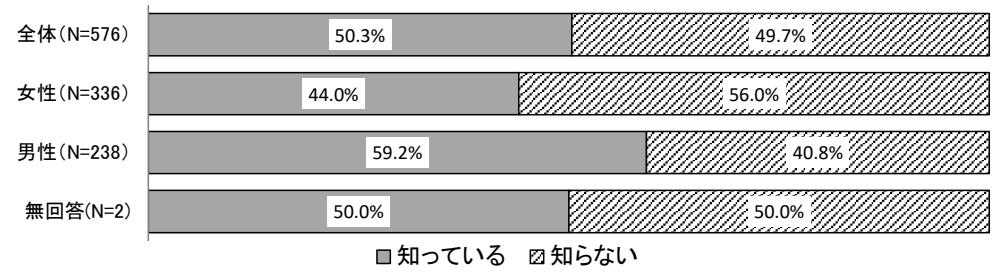
２ 各設問の調査結果

（1） ジェンダー平等に関する用語の認知度

問５　次のうち、知っている言葉や取組にすべて○をしてください。

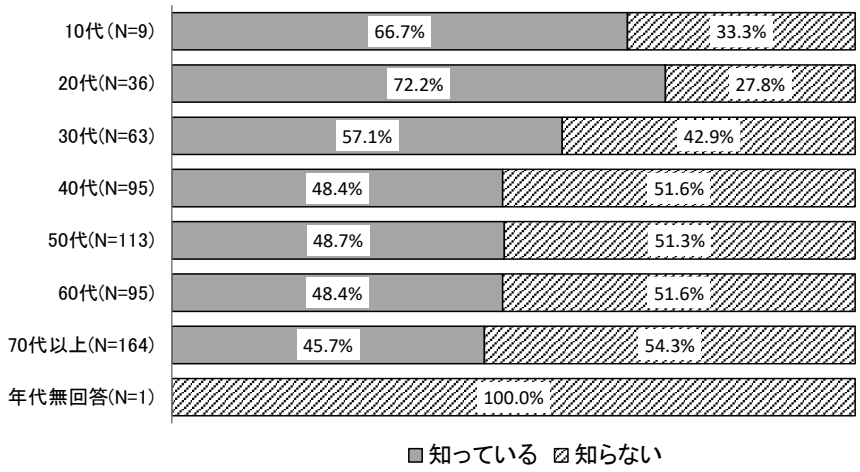
１男女共同参画社会基本法、２女性活躍推進法、３ちがさき男女共同参画推進プラン、４茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組、５暴力を受けたときに相談できる窓口（女性のための相談室）、６メディアリテラシー、７ジェンダー平等、８多様性社会

①男女共同参画社会基本法



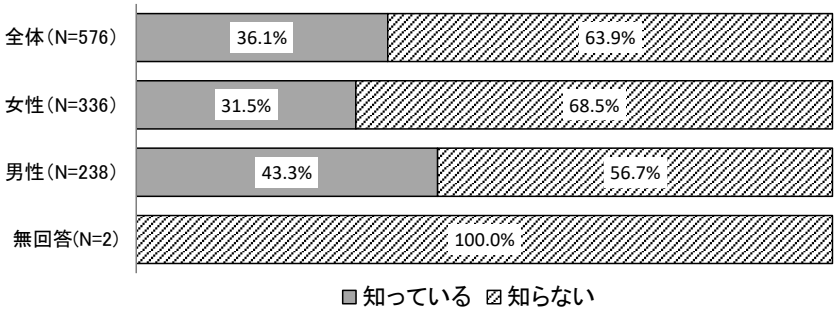
［全体の傾向］
「男女共同参画社会基本法」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合は50.3%と約半数を占めています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が44.0%、男性が59.2%で、女性が男性よりも15.2ポイント低くなっています。



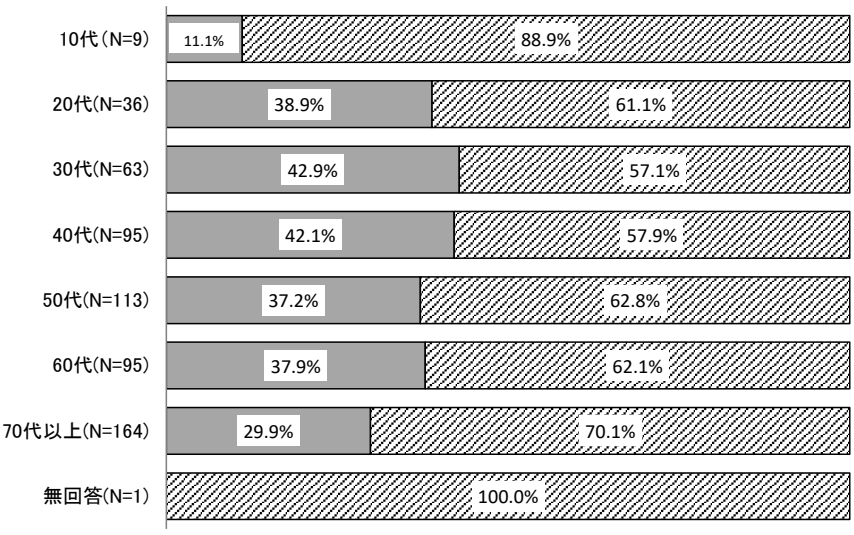
［年代別の傾向］
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、20代が72.2%で最も高く、10代（66.7%）、30代（57.1%）が続きます。70代以上が最も低く45.7%となっています。

②女性活躍推進法



［全体の傾向］
「女性活躍推進法」については、「知っている」と回答した割合（36.1%）より「知らない」と回答した割合（63.9%）の方が高くなっています。

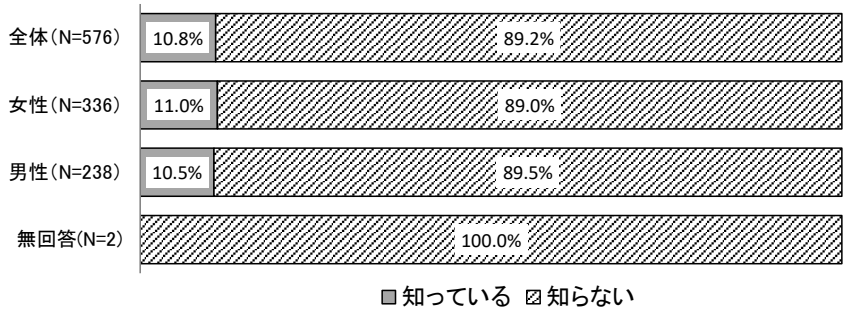
［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が31.5%、男性が43.3%で、女性が男性より11.8ポイント高くなっています。



［年代別の傾向］

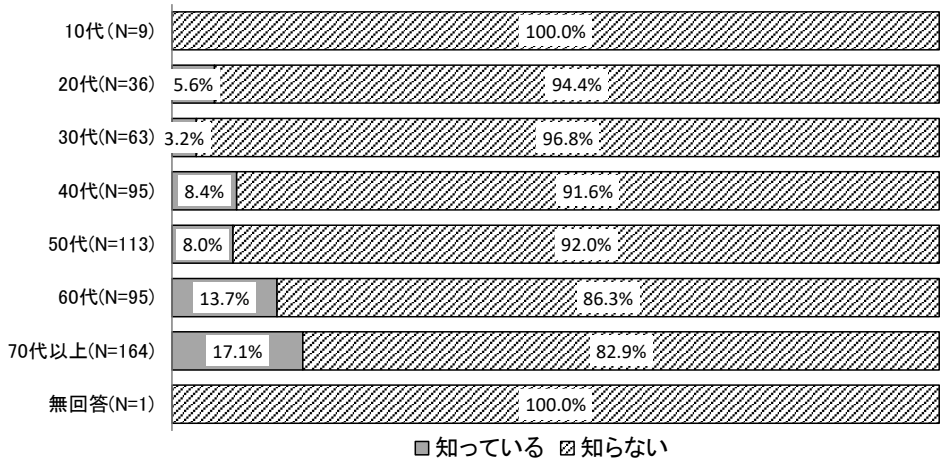
10代、70代以上を除いて年代ごとの大きな差はなく、おおよそ40%程度という結果になっています。

③ちがさき男女共同参画推進プラン



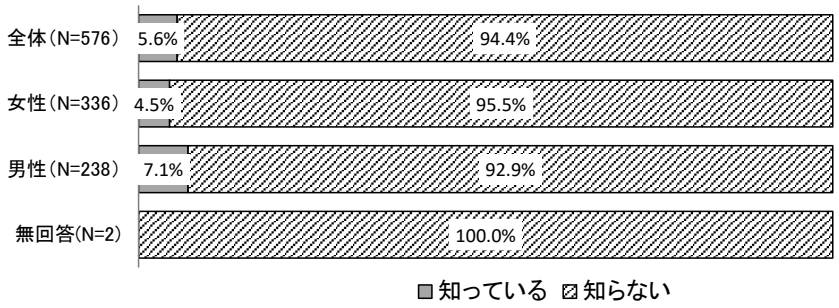
［全体の傾向］
「ちがさき男女共同参画推進プラン」については、認知度が低く、「知っている」と回答した割合は、10%程度となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性男性ともに10%程度差と差はありませんでした。



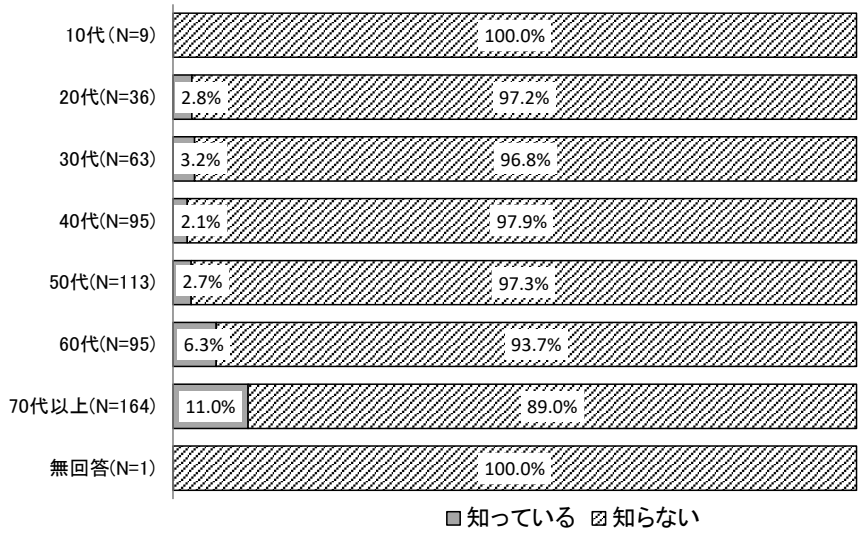
［年代別の傾向］
年代別で見ると、全ての年代で認知度が低く、最も認知度が高い70代でも17.1%となっています。

④茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組



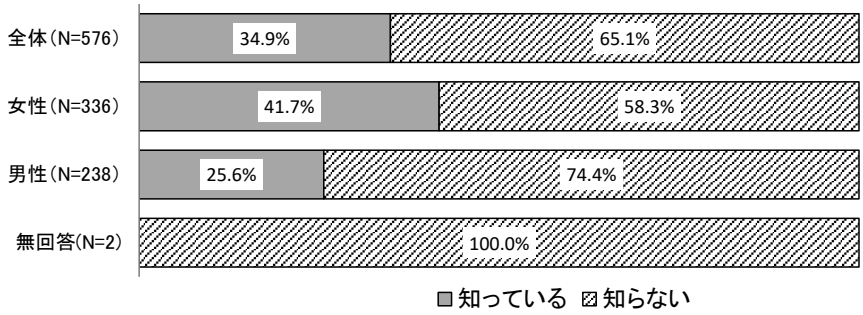
［全体の傾向］
「茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組」については、認知度が低く、「知っている」と回答した割合は5.6%となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が4.5%、男性が7.1%で、どちらも10%を下回っています。



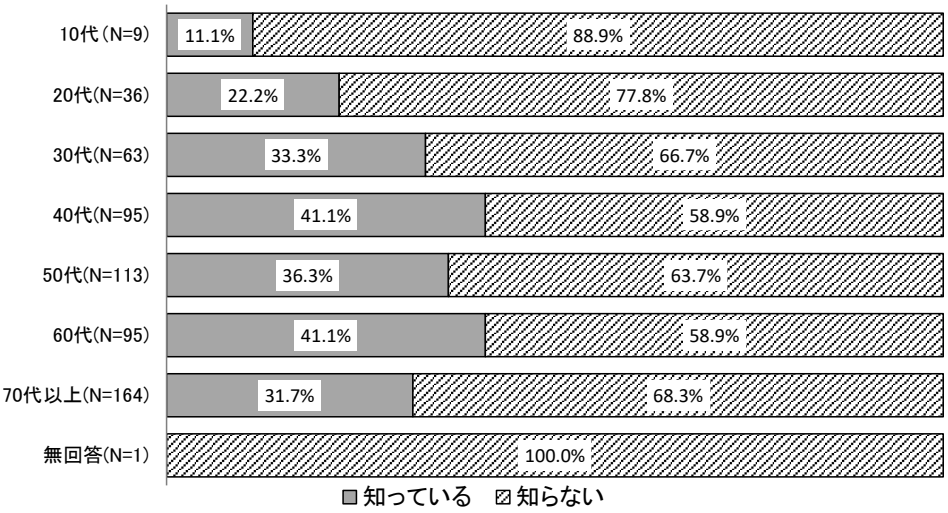
［年代別の傾向］
年代別で見ると、全ての年代で認知度が低く、最も認知度が高い70代でも11.0%になっています。

⑤暴力を受けたときに相談できる窓口（女性のための相談室）



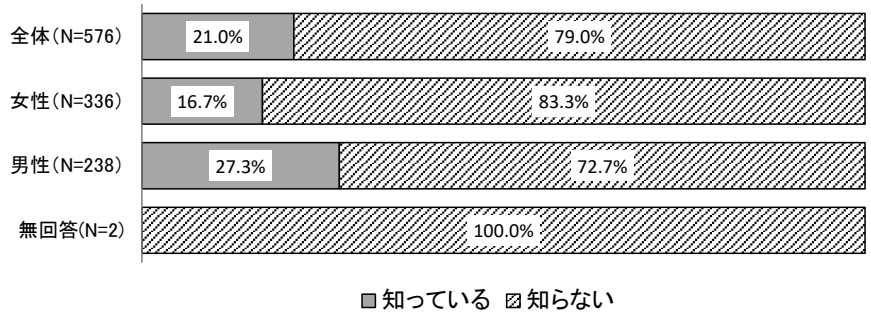
［全体の傾向］
　暴力を受けたときに相談できる窓口（女性のための相談室）の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が34.9%となっています。

［男女別の傾向］
　性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が41.7%、男性が25.6%で、女性が男性より16.1ポイント高くなっています。



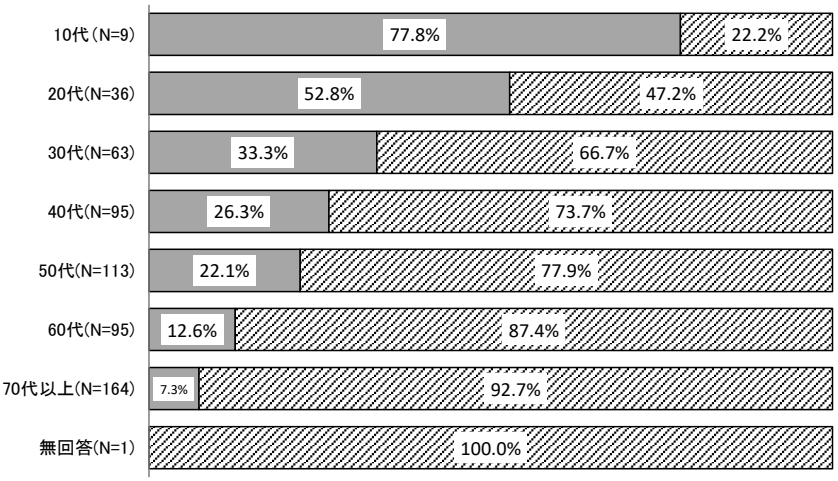
［年代別の傾向］
　年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、40代と60代が41.1%で最も高く、50代（36.3%）、30代（33.3%）が続きます。

⑥メディアリテラシー



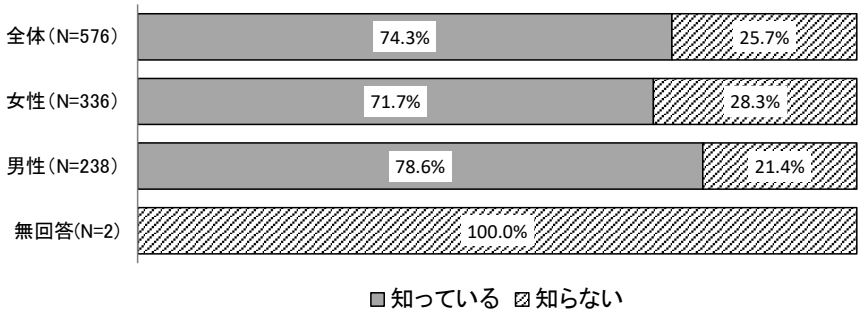
［全体の傾向］
「メディアリテラシー」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が21.0%となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が16.7%、男性が27.3%で、女性が男性より10.6ポイント低くなっています。



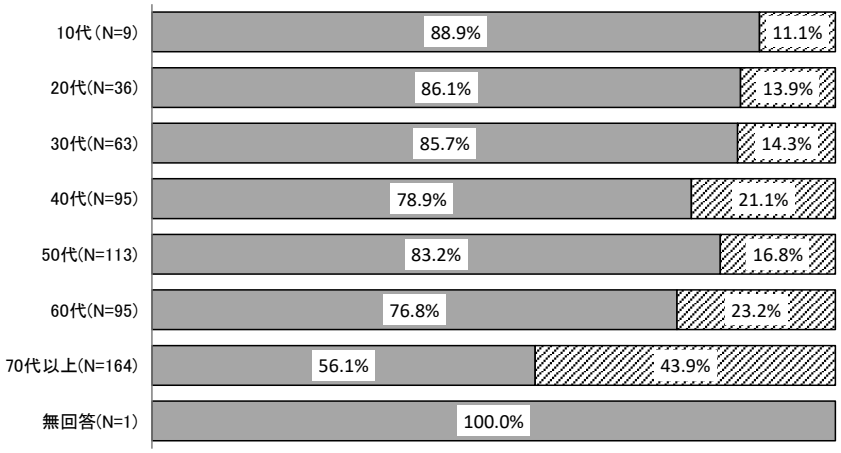
［年代別の傾向］
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、10代が77.8%と最も高く、20代（52.8%）、30代（33.3%）が続き年代が上がると低くなる傾向が見られます。

⑦ジェンダー平等



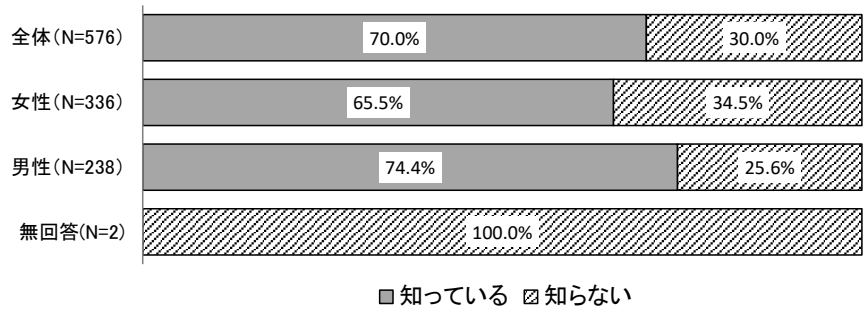
[全体の傾向]
「ジェンダー平等」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が74.3%となっています。

[男女別の傾向]
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が71.7%、男性が78.6%で、性別による差はあまり見られません。



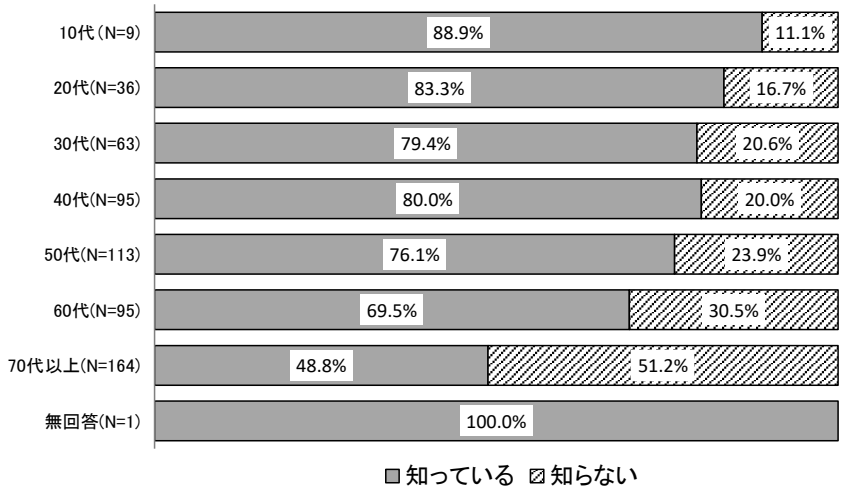
[年代別の傾向]
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、10代が88.9%と最も高く、20代（86.1%）、30代（85.7%）が続きます。

⑧多様性社会



［全体の傾向］
「多様性社会」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が70.0%となっています。

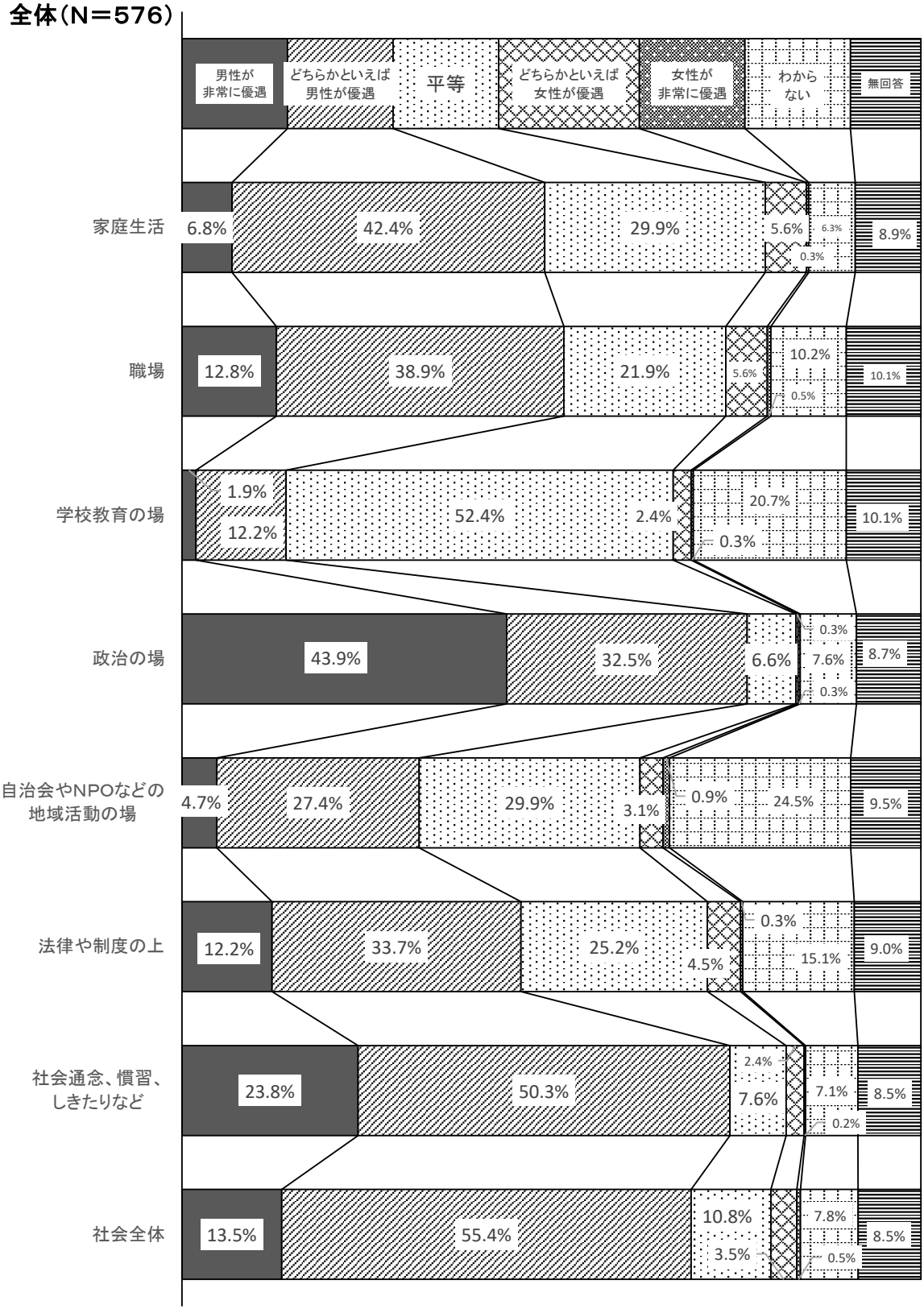
［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が65.5%、男性が74.4%で、性別による差はあまり見られません。



［年代別の傾向］
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、10代が88.9%と最も高く、20代（83.3%）、40代（80.0%）が続き、最も低い70代以上は、48.8%となっています。

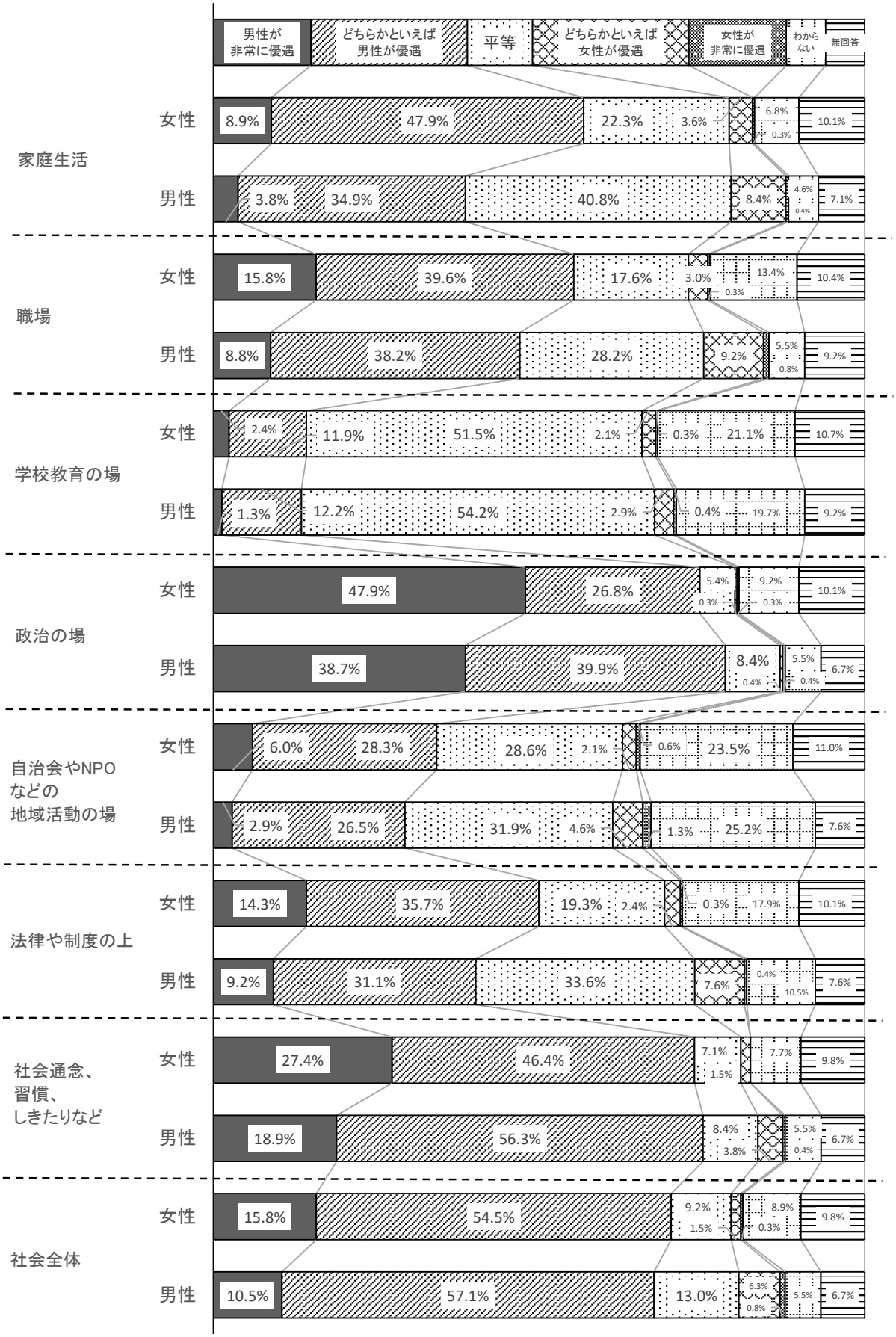
（2） 男女の地位の平等の考え方について

問６　あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。



［全体の傾向］

男女の地位については、「学校教育の場」では「平等」と回答した割合が52.4%となっている一方、全体としては、多くの場面で男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあります。



［男女別の傾向］

性別で見ると、男女ともに、特に「政治の場」、「社会通念、慣習、しきたりなど」、「社会全体」において、男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあり、すべての項目で女性の方が男性が非常に優遇」と回答した割合が高くなっています。

［年代別の傾向］

① 家庭生活	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
20代	2.8%	5.6%	41.7%	8.3%	2.8%	5.6%	2.8%
30代	9.5%	41.3%	31.7%	7.9%	0.0%	7.9%	1.6%
40代	7.4%	49.5%	30.5%	6.3%	0.0%	4.2%	2.1%
50代	7.1%	42.5%	28.3%	4.4%	0.9%	7.1%	9.7%
60代	7.4%	45.3%	27.4%	7.4%	0.0%	3.2%	9.5%
70代以上	4.9%	39.0%	29.9%	3.0%	0.0%	6.7%	16.5%
年齢無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

② 職場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	66.7%	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%
20代	13.9%	30.6%	27.8%	13.9%	0.0%	11.1%	2.8%
30代	12.7%	39.7%	33.3%	7.9%	1.6%	1.6%	3.2%
40代	12.6%	38.9%	30.5%	9.5%	1.1%	5.3%	2.1%
50代	13.3%	39.8%	23.9%	5.3%	0.0%	8.0%	9.7%
60代	14.7%	40.0%	21.1%	3.2%	1.1%	11.6%	8.4%
70代以上	12.2%	37.2%	11.0%	2.4%	0.0%	16.5%	20.7%
年齢無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③ 学校教育の場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	0.0%	77.8%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%
20代	2.8%	5.6%	72.2%	2.8%	2.8%	11.1%	2.8%
30代	1.6%	14.3%	50.8%	3.2%	1.6%	27.0%	1.6%
40代	2.1%	10.5%	63.2%	3.2%	0.0%	18.9%	2.1%
50代	2.7%	7.1%	54.9%	3.5%	0.0%	21.2%	10.6%
60代	0.0%	18.9%	49.5%	1.1%	0.0%	22.1%	8.4%
70代以上	2.4%	14.0%	40.9%	1.2%	0.0%	20.7%	20.7%
年齢無回答	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

④ 政治の場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	55.6%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
20代	55.6%	36.1%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%
30代	57.1%	23.8%	4.8%	0.0%	0.0%	12.7%	1.6%
40代	46.3%	36.8%	6.3%	0.0%	1.1%	7.4%	2.1%
50代	43.4%	33.6%	4.4%	0.9%	0.9%	7.1%	9.7%
60代	49.5%	29.5%	7.4%	0.0%	0.0%	5.3%	8.4%
70代以上	31.1%	34.1%	8.5%	0.6%	0.0%	9.1%	16.5%
年齢無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑤ 自治会やNPOなどの地域活動の場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
20代	5.6%	30.6%	22.2%	2.8%	2.8%	33.3%	2.8%
30代	4.8%	19.0%	22.2%	1.6%	1.6%	47.6%	3.2%
40代	8.4%	28.4%	34.7%	2.1%	1.1%	23.2%	2.1%
50代	5.3%	23.9%	25.7%	5.3%	0.9%	28.3%	10.6%
60代	2.1%	37.9%	31.6%	4.2%	0.0%	15.8%	8.4%
70代以上	3.7%	26.2%	34.1%	2.4%	0.6%	14.6%	18.3%
年齢無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑥ 法律や制度の上	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%
20代	16.7%	27.8%	25.0%	8.3%	0.0%	19.4%	2.8%
30代	15.9%	33.3%	15.9%	11.1%	0.0%	22.2%	1.6%
40代	20.0%	34.7%	21.1%	9.5%	1.1%	11.6%	2.1%
50代	14.2%	35.4%	16.8%	2.7%	0.9%	19.5%	10.6%
60代	9.5%	34.7%	35.8%	2.1%	0.0%	9.5%	8.4%
70代以上	6.1%	33.5%	30.5%	1.2%	0.0%	11.6%	17.1%
年齢無回答	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

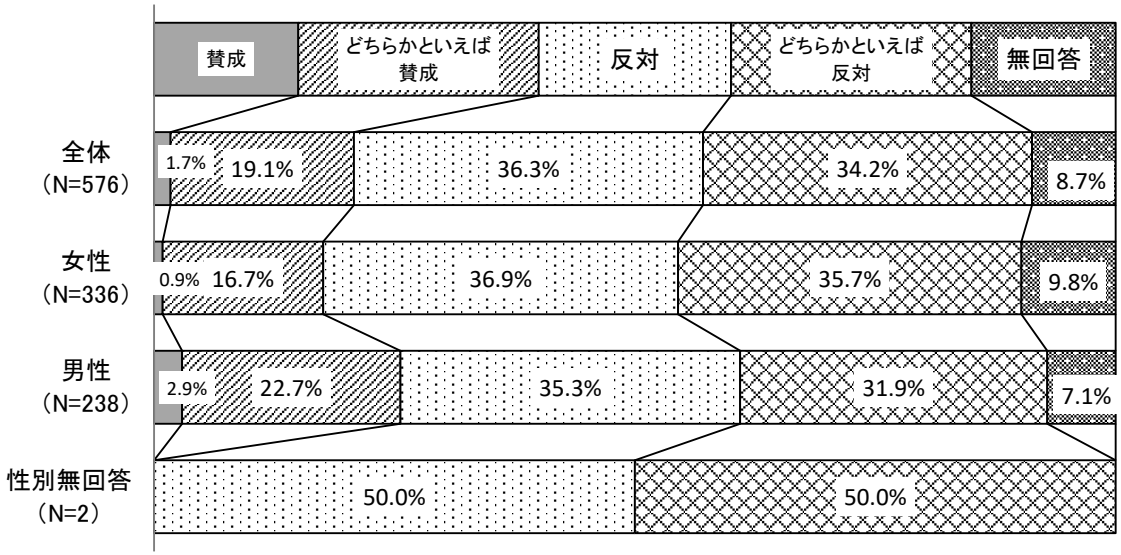
⑦ 社会通念、慣習、しきたりなど	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	11.1%	66.7%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
20代	22.2%	38.9%	16.7%	11.1%	0.0%	8.3%	2.8%
30代	36.5%	41.3%	4.8%	3.2%	0.0%	12.7%	1.6%
40代	29.5%	49.5%	7.4%	3.2%	1.1%	7.4%	2.1%
50代	25.7%	53.1%	3.5%	0.9%	0.0%	7.1%	9.7%
60代	22.1%	58.9%	8.4%	0.0%	0.0%	2.1%	8.4%
70代以上	16.5%	48.8%	9.1%	2.4%	0.0%	7.3%	15.9%
年齢無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑧ 社会全体	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	77.8%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
20代	16.7%	44.4%	19.4%	5.6%	0.0%	11.1%	2.8%
30代	22.2%	49.2%	12.7%	4.8%	0.0%	9.5%	1.6%
40代	18.9%	53.7%	7.4%	8.4%	2.1%	7.4%	2.1%
50代	13.3%	59.3%	6.2%	4.4%	0.9%	6.2%	9.7%
60代	13.7%	61.1%	10.5%	0.0%	0.0%	6.3%	8.4%
70代以上	7.3%	53.7%	13.4%	1.2%	0.0%	8.5%	15.9%
年齢無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

多くの場面で、年代によらず、男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあります。

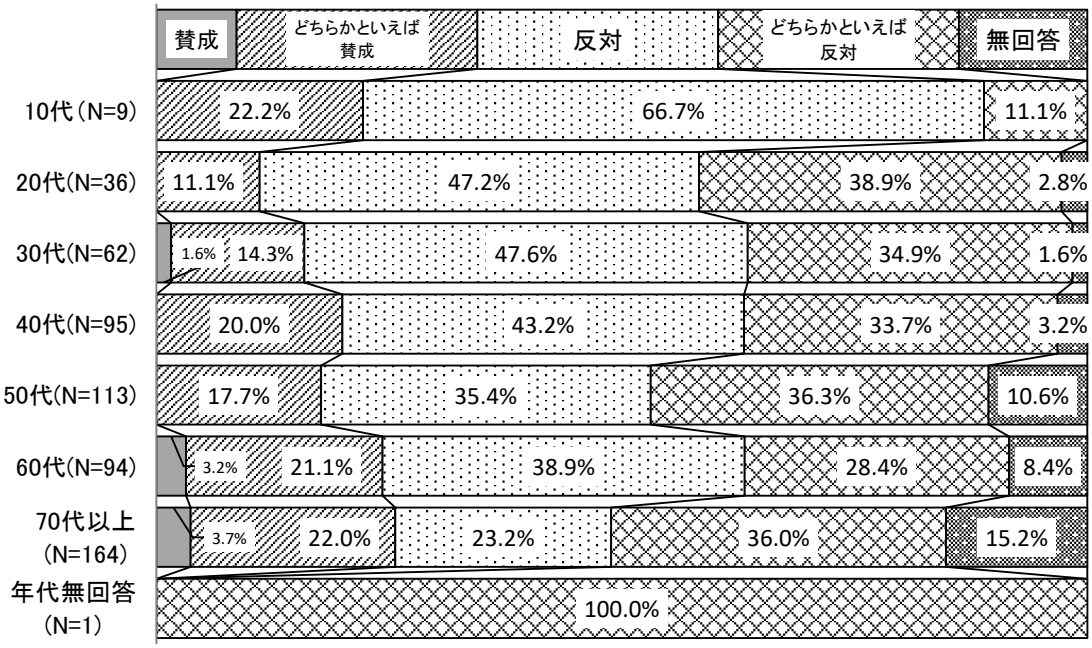
（3）「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問７　「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識について、どうお考えですか。



［全体の傾向］
　固定的性別役割分担意識については、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した割合は70.5%で、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合（20.8%）より49.7ポイント高くなっています。

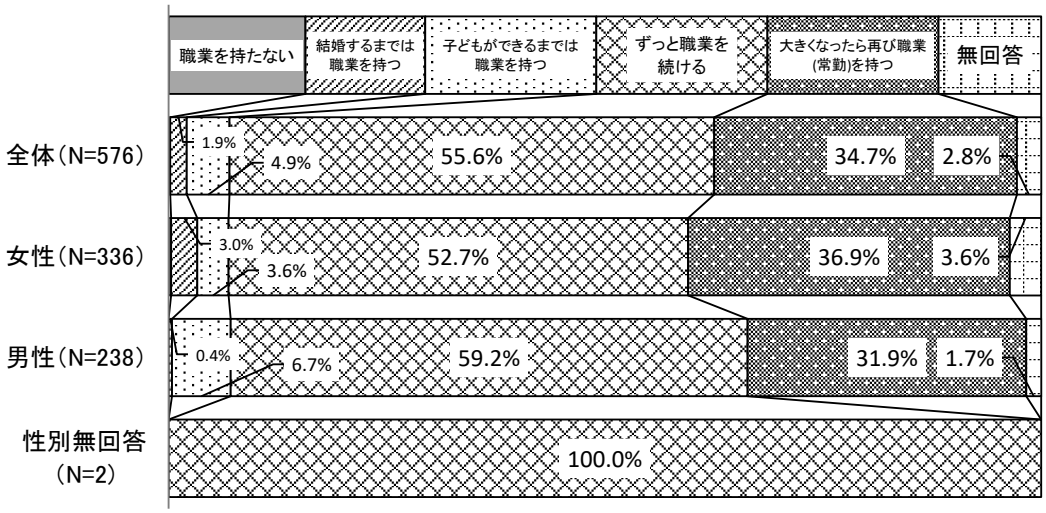
［男女別の傾向］
　性別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性が17.6%、男性が25.6%で、男性が女性より8ポイント高くなっています。



［年代別の傾向］
　年代別で見ると、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した割合は、20代が86.1%と最も高く、30代(82.5%)、10代(77.8%)が続きます。

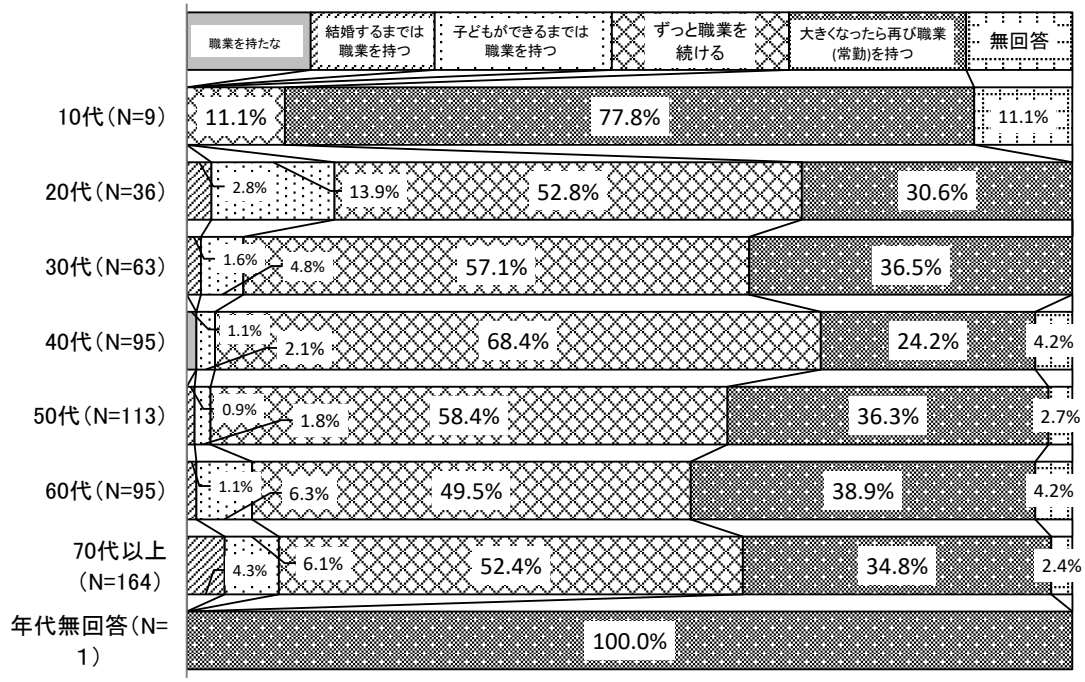
（4） 一般的に女性が職業を持つことについて

問８　一般的に女性が職業を持つことについて、どうお考えですか。



［全体の傾向］
「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が55.6%で最も高く、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」（34.7%）が続きます。

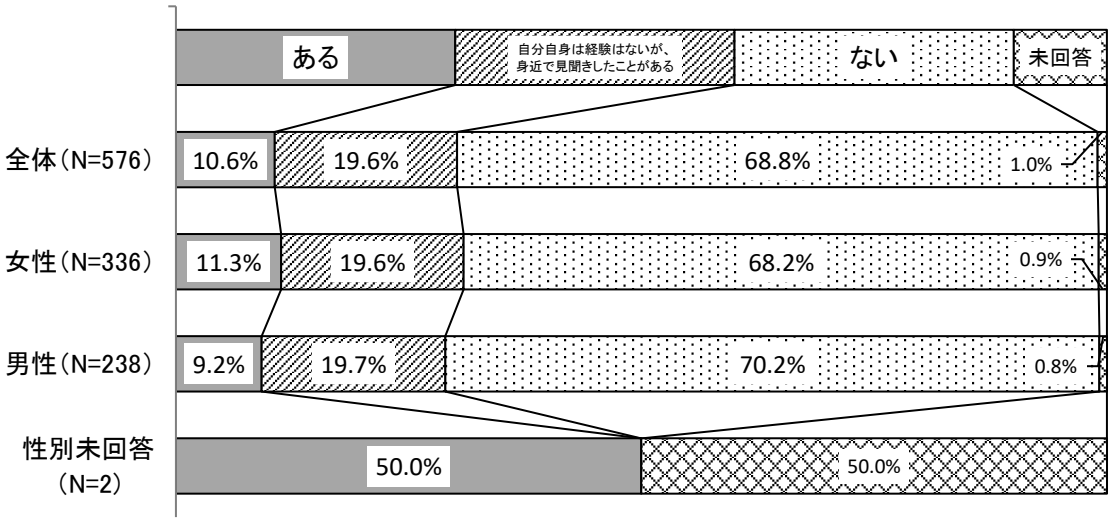
［男女別の傾向］
性別で見ると、男女共に、「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が最も多く、女性が52.7%、男性が59.2%で、性別による差はあまり見られませんでした。



［年代別の傾向］
年代別で見ると、「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合は、40代が68.4%で最も高く、50代（58.4%）、30代（57.1%）が続きます。また、「女性は職業を持たない方がよい」または「結婚するまでは職業を持つ方がよい」と回答した割合は、全ての年代で5%未満と低くなっています。

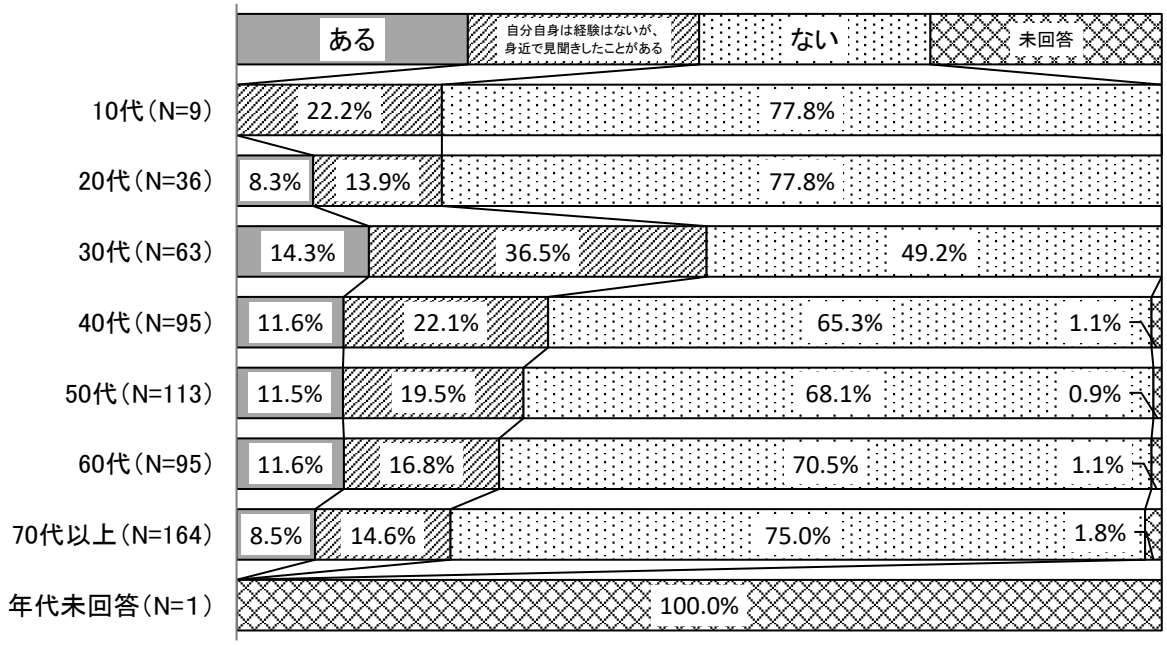
（5） 配偶者・パートナー間における暴力の経験について

問９　あなたは、配偶者や恋人などパートナーから暴力をふるわれたり、身近で見聞きした経験はありますか。



［全体の傾向］
　配偶者・パートナー間で行われる暴力について、「受けたことがある」と回答した割合は10.6%、「身近で見聞きしたことがある」と回答した割合は19.6%となっています。

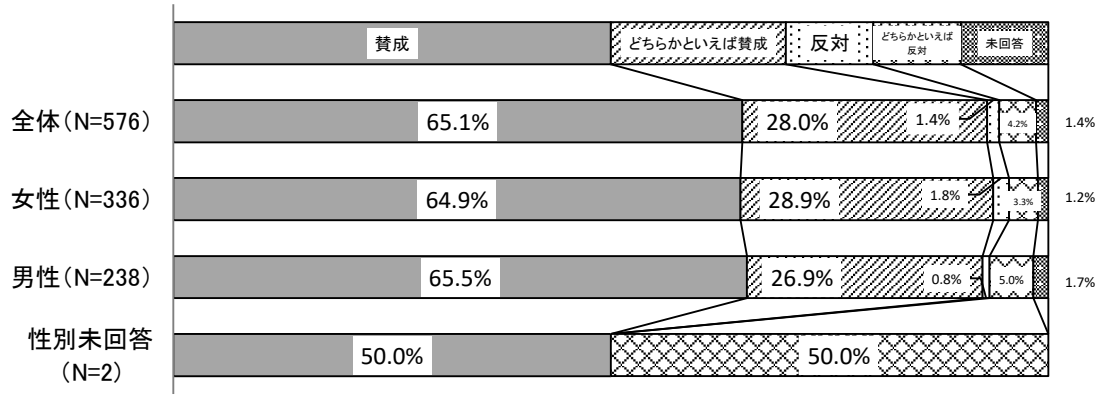
［男女別の傾向］
　性別で見ると、「暴力を受けたことがある」と回答した割合は、女性が11.3%、男性は9.2%と、女性が男性よりやや高い結果となっています。



［年代別の傾向］
　年代別で見ると、「暴力を受けたことがある」と回答した割合は、30代が14.3%で最も高く、40代（11.6%）、60代（11.6%）が続きます。「自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある」と回答した割合は、30代が36.5%で最も高く、10代（22.2%）、40代（22.1%）が続きます。

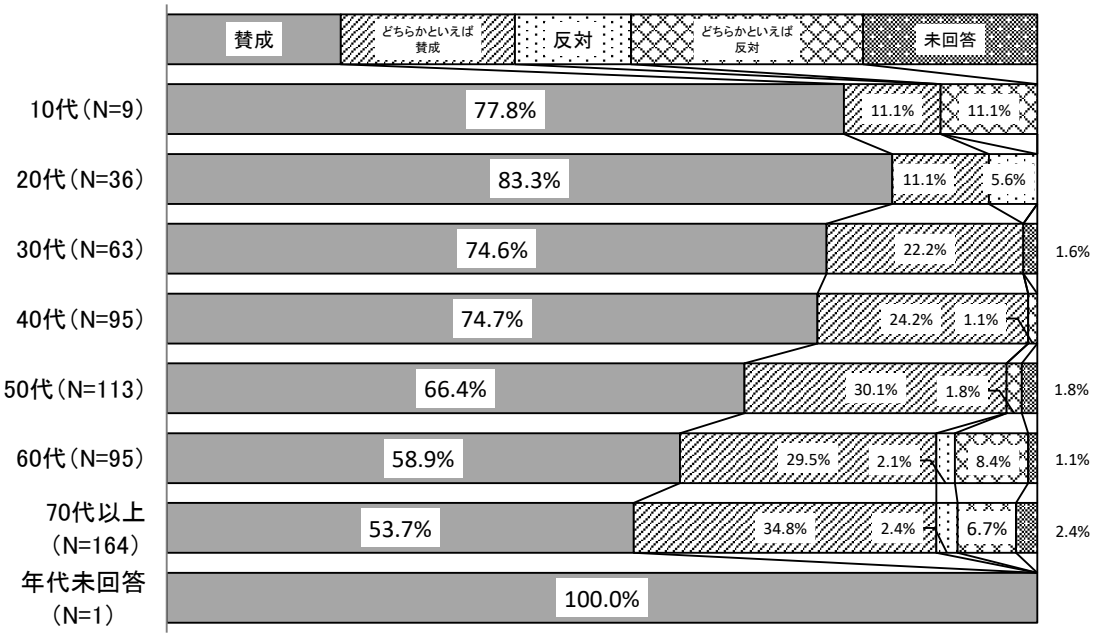
（6） 女性が妊娠・出産等について自ら決定することについて

問１０　妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権利を、女性が有するという考え方について、どうお考えですか。



［全体の傾向］
妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権利を女性が有するという考え方については、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合が93.1%と、全体の9割強を占めています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性が93.8%、男性が92.4%で、性別による差はあまり見られません。



［年代別の傾向］
年代別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、40代が98.9%と最も高く、30代（96.8%）、50代（96.5%）が続きます。

第３章　調査結果のまとめ

第３章　調査結果のまとめ

１　ジェンダー平等に関する用語の認知度について

●「男女共同参画社会基本法」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が50.3%と、前回調査（48.4%）より1.9ポイント上昇しました。また、投問を「女性のための相談室」に限定せず、「暴力を受けたときに相談できる窓口（女性のための相談室）」としたことから、34.9%と、前回調査から12.4ポイント上昇しました。「ちがさき男女共同参画推進プラン」（10.8%）、「茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組」(5.6%)、メディアリテラシー（21.0%）については依然として認知度が低いことから、市民により一層浸透させていくための努力が必要です。「ジェンダー平等」の認知度は、74.3%、「多様性社会」の認知度も70%と高くなっています。【問5】

２　男女の地位の平等について

●男女の地位の平等については、「学校教育の場」では「平等」と回答した割合が52.4%となっている一方、全体としては、多くの場面で男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあります。「社会通念・慣習・しきたりにおける男女の地位の平等」については、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が74.1%と高く、男女の不平等感は根強く残っています。【問6】

●「男は仕事、女は家庭という固定的性別役割分担意識」については、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した割合は70.5%と、前回調査（70.9%）から若干減少しているものの、否定的に考える人が約7割と多くなっています。一方、性別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性が17.6%、男性が25.6%で、男性が女性より8ポイント高くなっています。【問7】

３　女性の活躍推進について

●一般的に女性が職業を持つことについて、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」とする就業継続を支持する回答の割合が55.6%で最も高く、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」（34.7%）が続きます。性別で見ると、就業継続を支持する回答の割合は、女性が52.7%、男性が59.2%で、前回調査では、女性が53.8%、男性が54.1%となっており、今回の調査においても性別により差はほぼ見られませんでした。【問8】

４　配偶者暴力と女性の有する権利について

●「配偶者や恋人などのパートナーから暴力をふるわれたり、身近で見聞きした経験」については、自分に対しては、全体で10.6%、女性は11.3%、男性は9.2%が「ある」と回答しています。【問9】

●「妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権利を、女性が有するという考え方」については、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合が、93.1%と前回調査（87.2%）から上昇しました。さらに、性別による差がほぼなく、一般的な考え方として広く市民に定着していると考えられます。【問10】

資　料　編

1　調査票

～　市からの大切なお願い　～

ジェンダー平等社会に関するアンケートにご協力ください！

- このアンケート調査は、ジェンダー平等社会に関する市民の意識を把握することを目的としています。
- いただいた御意見は、市の施策を検討する際の基礎資料として活用いたします。
- 回答に要する時間は約５分です。

性別に関わりなく、互いに協力し合う茅ヶ崎市にするために、

あなたの声を聞かせてください

御回答にあたってのお願い

１．記入の方法

・この意識調査は個人を対象としていますので、御本人が直接回答するか、御家族の方などに御助力をいただき回答してください。

２．回答方法（一方を選択のうえ、回答してください。）

①郵送により回答する場合

調査票を記入　→　調査票を返信用封筒に入れ、ポストへ投函

②インターネットにより回答する場合

右のコードを読み込む　→　専用フォームで回答

３．お問い合わせ

調査について御不明な点等がございましたら、下記までお問い合わせください。

茅ヶ崎市　文化生涯学習部　男女共同参画課

電　　話　　０４６７－５７－１４１４（直通）

E-mail　　danjo@city.chigasaki.kanagawa.jp

※この調査は、18歳以上の市民を対象に、1,300人を住民基本台帳より無作為に抽出して実施しています。回答は無記名で行い、集計結果は統計的に処理するため個人が特定されることはありません。

また、行政上の基礎資料として活用することを目的としており、この目的以外には使用することはありません。

令和４年度ジェンダー平等社会に関するアンケート　回答票

設問に対するお答えは、用意されている選択肢の**番号を○で囲んでください。番号を記載する設問もあります。**

また、**○の数は、１つだけ選んでいただく設問と複数選んでいただく設問がありますので、御注意ください。**

はじめに、御自身・御家族のことについてお伺いします

問１　あなたの性別を教えてください。（○は1つだけ）

１．女性	２．男性
３．その他（　　）	

※　この調査では、ジェンダー平等社会に関する意識や生活の実態を把握・分析するために、問1で性別をお伺いします。また、性別は多様であるという観点から、女性・男性の選択肢に加えて「その他（　　）」を設けています。

問２　あなたの年齢を教えてください。（○は1つだけ）

１．10 代	２．20 代	３．30 代
４．40 代	５．50 代	６．60 代
７．70 代以上		

問３　あなたの職業は、次のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

１．正規の従業員
２．官公庁などの正規の職員
３．会社などの役員
４．自営業主（農林漁業、商工業、サービス業等　家族従業者を含む）
５．専門職・技術職（開業医、弁護士、芸術家等）
６．パートタイマー・アルバイト（契約社員・派遣社員・在宅ワークを含む）
７．その他（　　）

問４　あなたの世帯の構成は、次の中のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

１．単身（ひとり暮らし）	２．夫婦のみ （事実婚含む）
３．核家族世帯（親と未婚の子ども）	４．二世代世帯（親と子ども世帯）
５．三世代世帯（親と子ども世帯と孫）	６．その他 （　　）

問５　次のうち、知っている言葉や取組に**すべて**○をしてください。

１．男女共同参画社会基本法	２．女性活躍推進法
３．ちがさき男女共同参画推進プラン	４．茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組
５．暴力を受けたときに相談できる窓口（女性のための相談室）	６．メディアリテラシー
７．ジェンダー平等	８．多様性社会

男女の平等についてお伺いします

問６　あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○は各項目に１つずつ）

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④政治の場	1	2	3	4	5	6
⑤自治会やNPOなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体	1	2	3	4	5	6

問７　「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識*について、どう思いますか。（○は1つだけ）

１．賛成	２．どちらかといえば賛成
３．どちらかといえば反対	４．反対

***固定的性別役割分担意識：**例えば「男は仕事、女は家庭」「男性は主要業務、女性は補助的な業務」というように、性別を理由として役割を固定化してしまう考え方や意識のことです。

女性の活躍推進についてお伺いします

問８　一般的に女性が職業を持つことについて、どうお考えですか。（○は1つだけ）

１．女性は職業を持たない方がよい
２．結婚するまでは職業を持つ方がよい
３．子どもができるまでは職業を持つ方がよい
４．子どもができてもずっと職業を続ける方がよい
５．子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい

人権についてお伺いします

問９　あなたは、配偶者や恋人などパートナーから暴力をふるわれたり、身近で見聞きした経験はありますか。
（○は１つだけ）

１．ある	２．自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある
３．ない	

問１０　妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権利を、女性が有するという考え方について、どうお考えですか。（○は1つだけ）

１．賛成	２．どちらかといえば賛成
３．反対	４．どちらかといえば反対

最後の設問です。

問１１　ジェンダー平等社会の実現に向けたまちづくりについて、御意見・御要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので自由に記入してください。

調査に御協力いただきまして、ありがとうございました。

同封の返信用封筒に調査票２枚を入れて、１月３１日（火）までにポストへ投函してください。

令和４年度ジェンダー平等社会に関するアンケート調査報告書
令和５（２０２３）年４月発行
発行　茅ヶ崎市　文化スポーツ部多様性社会推進課
〒２５３－８６８６　神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目１番１号
電　話　０４６７－８１－７１５０（直通）
ＦＡＸ　０４６７－５７－８３８８
ホームページ　https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/